



近年、主食用米の総需要量は食生活の多様化などを背景に減少傾向が続いており、家庭内で米を炊飯・消費する量は減少しています。その反面、中・外食向けに供される業務用米の消費量は増加傾向にあります。

県内でも業務用米の需要が拡大していることから、業務用に向く品種の選定が求められています。

そこで、普通期栽培向けに多収で食味が良く、病害虫抵抗性を持った品種として「恋初めし」を選定しました。

「恋初めし」は、農研機構西日本農業研究センターで育成された品種で、「ヒノヒカリ」と比べて出穂期で2日、成熟期で4日早い中生品種で

水稻「恋初めし」の品種特性

品種名	恋初めし	ヒノヒカリ	
移植期	6月15日	6月15日	
出穂期	8月19日	8月21日	
成熟期	9月29日	10月3日	
稈長 (cm)	81.5	82.4	
穂長 (cm)	20.0	19.7	
穂数(本/m ²)	283	317	
1穂もみ数(粒)	96.0	86.7	
千粒重 (g)	25.3	23.1	
玄米重(kg/10a)	599	523	
耐病性	葉いもち	やや強	やや弱
	穂いもち	強	やや弱
	縞葉枯病	抵抗性	罹病性

※データは2015～20年の平均値

水稻中生品種「恋初めし」

業務用に向く多収 病害虫強く良食味

で、穂数は少なく、1穂もみ数がやや多く、玄米の千粒重も重く、収量は「ヒノヒカリ」対比の115%と多収で、食味が良いという特性を持っています。

用途としては特におにぎりや酢飯に最適です。穂いもち、縞葉枯(しまはがれ)病の抵抗性遺伝子を持ち、収量性も高いので、低価格帯の業務用米として高い導入効果が見込まれます。「恋初めし」は2021年に県の認定品種として採用され、契約栽培で普及を開始する予定です。

(県農林技術開発センター 農産園芸研究部門作物研究室 主任研究員 中山美幸)

す。
稈(かん)長、穂長は同等